

「逃げるは恥だが役に立つ？」

聖書:コリントの信徒への手紙 I 10章 13節

東京神学大学 大学院1年 田中 真

私は今、東京神学大学という大学で、牧師になるための勉強をしています。今日は「心に響く聖書の言葉」というテーマでお話をする機会をいただきました。

さて、今日の奨励の題である「逃げるは恥だが役に立つ」、これはマンガを原作として、2016年に大ヒットしたドラマからパクったことを最初に告白したいと思います。でも今日お話ししたいのは「逃げるは恥だが役に立つ」ということではありません。むしろ、「逃げるのは恥じゃない！そして役に立つ！」ということです。

今日の聖書の言葉にこうあります。「神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。」このことについて、自分の経験から、少しお話させてください。

私は、両親が牧師という家庭に生まれました。つまり、生まれ育った家、それ自体が基督教の教会だったわけです。だから、小さいころから「神さまがいる」こと自体は、あまり疑っていなかったように思います。でも、「神さまがいる」ということ、それがイコール、基督教を信じている、信仰を持っている、ということではありません。むしろ、自分の家が教会であるという特殊な環境、それが嫌でした。だから将来は、普通に就職して、普通に会社員として、普通の日本人として生きていくんだ、そうやって思っていました。高校生になり、部活も忙しくなると、何かと理由をつけて教会に行かなくなり、いや、家なんですけどね。笑 なるべく教会の人に会わないようにしたりして、何とか自分の中の基督教色を消そう、消そうと努力していました。結果として、15歳から25歳の間、10年間、ほとんど教会に行かない生活を送っていました。その間に大学も卒業し、私は社会人となっていました。

それが、です。社会人の3年目、私は転職して、就活の時から希望していた業界の仕事につくことが出来ました。でもこれが、どうもしんどいのです。会社の雰囲気合わなかったとか、単純に肉体的につらかったとか、いろいろ理由をあげてみようと思えばできますが、とにかくだんだん私は「しんどい、やめたい」と思うようになっていきました。でも、新卒で入った会社を辞めて転職したし、1年目だから

しんどいのは当たり前。だから頑張れ、自分！と言い聞かせながら会社に通う日々です。でも、辛いんですね。だんだん、自分の気持ちが前にも、後ろにも行けなくなって、立ち往生。もうどうすればいいかわからない。辞めたいけどやめたら負けだとか、辞めてどうするんだ、とか、そんな気持ちばかりぐるぐるして、自分でも、どうしようもできなくなっていました。

そんな時に、教会のことがふっ、と心に浮かんできました。ああ、教会に行けば、少しは気持ちが楽になるかな。教会にいる人は、温かく自分のことを迎えてくれるかな、そう思って、日曜日の礼拝に行きました。10年ぶりの礼拝です。確かに、神さまはいると思っていた。でも、自分とは関係ない。たまにいろんな気まぐれを起こすだけで、自分の人生とは関係ない、そう思っていた。でもそうじゃなかった。神さまは、イエスさまは自分のそばにいてくれる人で、どんなにしんどくても、どんなにリアルがダメダメで辛くても、変わらずに、自分のことを認めてくれて、温かく迎えてくれる。10年ぶりの礼拝で、そのことを知りました。そのことを知って、初めて、神さまのことを信じたいと思え、そうやって救ってくれた神さまに恩返しをしたい、そう思いました。

結果として、僕は1年でその仕事を辞めて、東京神学大学に進学しました。確かに、社会的に見れば、それは「逃げ」だと言われるかもしれませんが。いや、きっとそうだと思います。でも、逃げたおかげで、僕は今まで目をそむけていた、神さまの存在に気づきました。自分が、本当に一生をかけて大切にしたいものに出会うことが出来ました。そのことに、本当に感謝しています。

私たちは、生きていく中で、いろんなしんどいことに出会う時があります。好むと好まざるとにかかわらず、それは向こうからやってきます。でも大丈夫です。あなた方を襲った、そしてこれから襲う試練で、人間として耐えられないものはありません。それは、その出来事を用意しているのが、ほかならぬ神さまだからです。私たちは、大体は、そのことに目を向けることなく、日々を過ごしています。そして、しんどい時は友達に愚痴ったり、趣味でそのストレスを発散したりしています。

でも、それだけじゃにつちもさつちもいかないときもあるかもしれません。いや、きっとあるでしょう。もう、そうしたことに会った人もいるかもしれません。その時、逃げることを恐れなくてください。決して逃げるのは恥ではありません。逃げるのが、みんなと同じレールから外れることが悪いことのような、そんな世の中で、逃げるのはとても勇気が要ることです。どこに逃げるんだよ、とも思うかもしれませんが。そんな時には、教会があります。神さまもイエスさまも、あなたのことを待っています。「神は真実な方で

す。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていただきます。」逃げるのは恥ではありません。逃げた先も、神さまが準備してくれている、ステキなステキな、あなたの道です。

共に祈りましょう。

私たち一人ひとりをこの世に送り出してくださった神さま、

あなたは、愛を持って、私たちの人生を、歩みを導いていただきます。

苦難の中にある時、どんなに低められている時でも、同じように、そばにいていただきます。

どうか、そのことに心から信頼させてください。

あなたが、真実な方であることを、どうか、日々の生活の中で私たちに教えてください。

そんな恵みの中で、私たちが生かされていることに、本当に感謝します。

イエスさまのお名前によって、お祈りします。

アーメン

2019年10月9日 聖学院大学 全学礼拝シリーズ礼拝「心に響く聖書の言葉」